

『古代アメリカ』 8, 2005 pp.41-49

## <調査報告>

# ペルー北部山地ワマチューコ地域の一般調査

山本 睦

(総合研究大学院大学)

## 1. はじめに

本報告は2004年6月から11月にかけて実施した一般調査の概報である。対象地域は、ラ・リベルタ県に属する標高3160mのワマチューコ市を中心とする地域で、アンデス山脈の東斜面である(図1)。この地域にはグランデ河、シラクマカ河、ヤモバンバ河という3つの河が流れ、幾度となく名前を変えながら北へと進み、カハマルカやマラニオン河へと通じている。街の東にある湖を水源とするロリチューコ河も同様に、始めは東へ、後に流れをやや北に変えながらマラニオン河へと注ぐ。また、グランデ河はチカマ河の上流域にも通じているという地形的特徴をも持っている。街の周囲では平地が見られるものの盆地というにはやや狭く、気候も標高のため寒冷である。しかし、既述のグランデ河とロリチューコ河の河谷では海拔3000mを下回る地帯が存在する。この両者の河谷底部は海拔2200m前後でユンガの様相を呈し、温暖である。前者はワマチューコ市周辺においては川幅が狭く、切り立っているが北へ進むにつれて川幅が広がり、なだらかな土地が広がるようになるが、後者では川幅が狭いうえに斜面が急で平らな土地はあまり見られない。

## 2. 調査目的

この地域の考古学的研究は、1900年のマックス・ウーレによる考古遺物の採集に端をなす[Kroeber 1944]。しかし、本格的な調査に関しては40年代のマックコウン[McCown 1945]、60年代のサッチャー[Thatcher 1972, 1975, 1977, 1979]による遺跡踏査がその先駆けとなる。彼らはワマチューコ市周辺で、それぞれ25、74遺跡を登録し、表面採集した土器片と小規模発掘からこの地域の編年を設定した。70年代からはトピック夫妻が継続して調査を行っており、マルカワマチューコ遺跡(写真1)、ピラコチャ・パンパ遺跡など当該地域の主要遺跡を発掘している[Topic and Topic 1982, 1983, 1984, 1987]。彼らが調査を行った遺跡の1つであるセロ・カンパーナ・エステ遺跡では土器片と放射性炭素年代測定から形成期の堆積が確認されているが、遺物等のデータは現在まで公表されていない。また、彼らの興味は主として形成期以降の時期にあるため、この地域では現在まで本格的な形成期(B.C.2500-50)研究は行われてこなかったと言える。一方、形成期以降の時期に関しては調査が多いとは言いが、トピック夫妻を始め、ヒースロップによるインカ道の調査も行われており、この地域がアンデス山間部の北と南を結ぶ移動ルートであったことが確認されている[Hyslop 1984]。



図1 中央アンデス全体図とワマチューコ地域

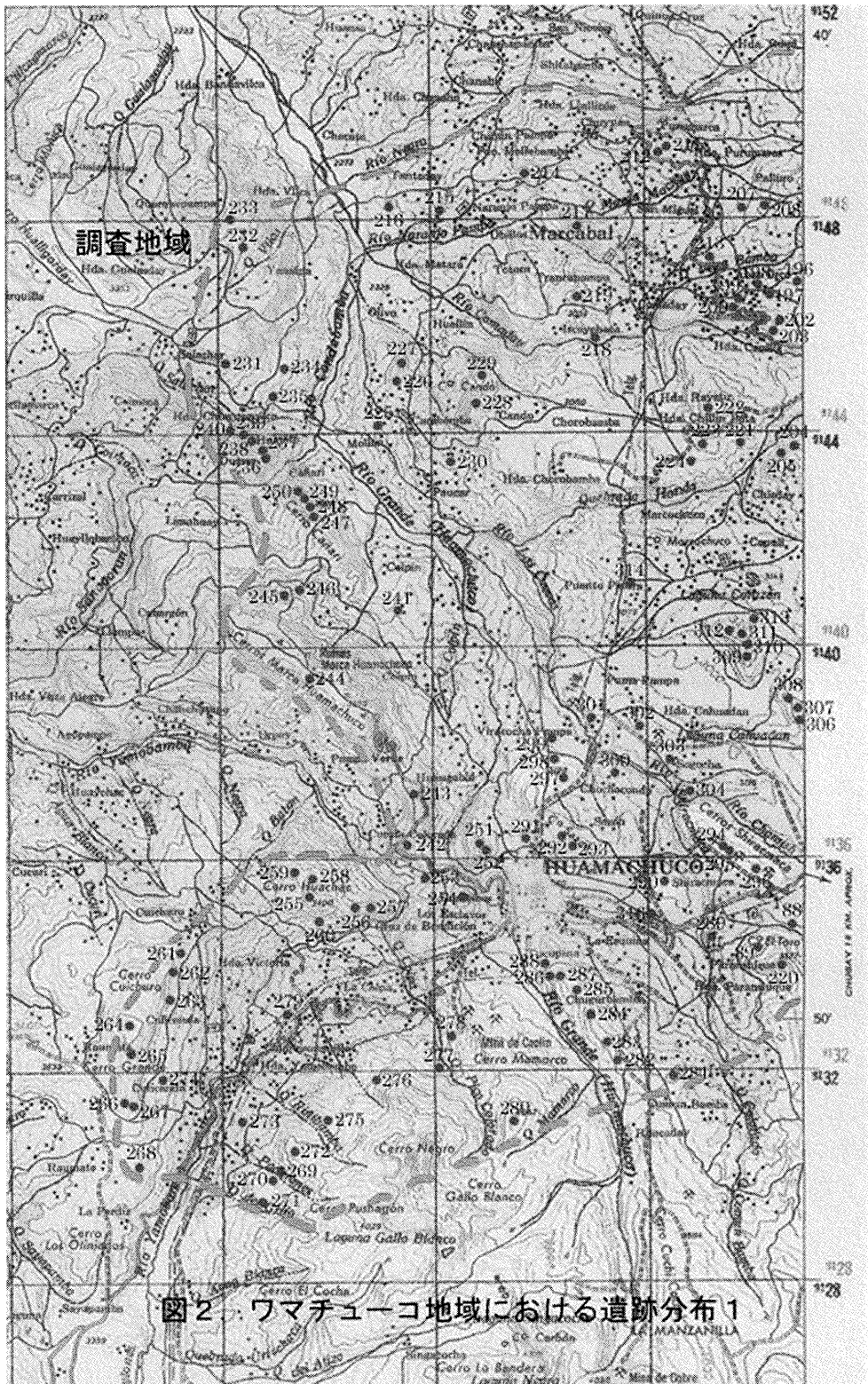


写真1 マルカワマチューコ

また、既述の先行研究からはインカ以前の地方発展期やワリ期においても、他地域、特にカハマルカやカエホン・デ・ワイラスとの交流の存在が示されており、この地域の地政学的重要性が示唆される。その一方、形成期に関するデータは乏しく、形成期における対象地域の状況は分からないことが多い。唯一分かっているのは、形成期の遺跡が存在するという事実と、それらの土器が非常にローカルな性格を持っているということである。しかし、過去の調査ではワマチューコ市周辺の3000m以上の場所のみが踏査されてきた。他地域のデータによれば形成期の諸遺跡は主として標高2000m前後に多い。よって、本調査では、特に3000m以下の地域を中心に一般調査を実施した。また、形成期研究においても「チャビン問題」として知られる汎アンデス的な考古遺物の類似性や長距離交易の問題が研究の主要トピックとなっているという状況がある。よって、アンデスにおいて一般的に移動ルートとして考えられている川筋を意識して踏査を行った。既述したようにグランデ河やロリチューコ河はカハマルカやマラニョン河、チカマ河の上流域に通じており、移動ルートとして考察するに最適な対象であると考えられた。

### 3. 調査概要

6月末から9月の始めまでの約2ヵ月半にわたって一般調査を実施した結果、合計316の遺跡を登録した(図2,3)。その内の54遺跡は先行研究者によって存在が知られていたものであるが、残





りの 262 遺跡は新たに登録したものである。ただし、登録した遺跡の大半は建造物を持たないマウンドであり、土器の分布のみで遺跡と認定した。しかし、中には部屋状の建造物が複合的に配置された非常に大規模なものもあった。踏査終了後、遺跡で表面採集した土器をワマチューコとカハマルカの先行研究を用いて比較、検討し[Terada and Onuki 1982, 1985, 1988]、各遺跡の時期決定を行った(表 1)。

結果、36 遺跡が形成期前期から後期に相当するマモルコ期、コルバ期 (B.C.1800-250) に、その後のサウサゴチャ期からサソン期にそれぞれ 56、63、88、103、167、188、57 遺跡が属することを確認した。形成期に関しては、末期以外に時期を細分することができなかった。これは、ワマチューコ地域における先行研究の不足と、採集した土器資料がいずれもローカル色が強くカハマルカのデータとの照合が困難であったためである。登録した遺跡数は、これまで登録されていた形成期の遺跡数を大幅に上回るものであるが、そのほとんどが建造物のない、小規模なマウンドであった。これは、現代の耕作によって破壊された可能性もあるものの(住民へのインタビューによれば以前は建造物があったという話が多い)、先行研究では大規模建造物を含む遺跡の存在は報告されておらず、そのような遺跡があったとも考えにくい。さらに、既述したように当該地域における形成期の土器はいずれも非常にローカルな性格を持っており、他地域との交流を示すような遺物は確認できなかった。

その一方、形成期末期以降、大きな変化が見られる。遺跡数が大幅に増加し、大規模な建造物を含む遺跡が現れ始めるのである。また、それと同時に他地域の、特にカハマルカ様式の土器が見られるようになる。これに関しては、調査の先進地であるカハマルカのデータを手掛かりとして考察することが可能である[Seki 1993, 1998]。カハマルカではこの時期に、農耕や家畜化といった様々な面で社会的に大きな変化が生じ、遺跡の立地も変化して、より高地の環境を利用し始めるようになったとされている。先述したように、ワマチューコ地域は標高が高く、3000m以下の場所が限定されているという特徴を持つ。データが不十分で推測の域をでないが、この時期のワマチューコ地域にもカハマルカと同様の社会的変化が起こったとは考えられないだろうか。つまり、形成期末期からワマチューコ地域において見られる遺跡数の増加と遺跡の大規模化といった変化を、高地の環境を利用し、遺跡の立地が変化した結果として解釈するということである。これを支持するようにワマチューコ地域では、全体の内の 30 遺跡だけが海拔 3000m 以下に位置している。また、形成期末期以降に見られ始める他地域の土器の存在は、少なくともそれ以降の時期では当該地域に地域間の交流があったことを示していると考えられる。興味深いことに、この時期はカハマルカ地域で輸送用の駄獣であるラクダ科動物の家畜化が始まる時期であり、家畜化の波は南から波及してきたと考えられている。これらのことから考えると、ワマチューコ地域における地域間交流は、ラクダ科動物の導入と機を同じくして展開し始めたのであろう。

#### 4. おわりに

本調査では、形成期における地域間交流の具体的な証拠を掴むことはできなかった。対象地域がアンデス山間部のバイパスとなるのは、早くとも形成期末期からであり、それ以前は非常に小規模でローカルな社会が存在していたと考えられる。今後は、このデータを活かしつつ、再度、形成期

の地域間交流について取り組むつもりである。

表 1 ワマチューコ地域の編年

	ホライゾンと 中間期の編年	発展段階に 基づく編年	カハマルカ地域の編年	ワマチューコ地域の編年
1533	後期 ホライゾン	インカ期	カハマルカ末期	サソン期
1470	後期中間期	地方王国期		カハマルカ後期
1200			中期 ホライゾン	
1100	カハマルカ中期	アマル期		
900	カハマルカ前期	ワマチューコ期		
700	前期中間期	地方発展期	カハマルカ前期	プルプカラ期
600			カハマルカ早期	サウサゴチャ期
450		ライソン期	EL 期	
200		形成期末期		ワカロマ後期
0	形成期後期	ワカロマ前期		
250	前期 ホライゾン	形成期中期	ワカロマ後期	コルパ・ マモルコ期
500	草創期	形成期前期		
900		形成期前期		
1000				
1500				
1800				

### 参考文献

Kroeber, Alfred L.

1944 *Peruvian Archaeology In 1942*. Viking Fund Publications In Anthropology Number Four, New York.

Hyslop, John

1984 *The Inka Road System*. Academic Press, New York,.

McCown, Theodore D.

- 1945 Pre-Incaic Huamachuco: Survey and Excavations in The Region of Huamachuco and Cajabamba. In *American Archaeology and Ethnology XXXIX 1942-1945*. University of California Press, Berkeley and Los Angeles.

Pérez, Ismael Calderón

- 1994 Monumentos Arqueológicos de Santiago de Chuco, La Libertad. *Boletín de Lima*. vol.XVI: 225-274.
- 1998 Sitios del Period Formativo en Santiago de Chuco, Departamento de La Libertad, sierra norte de los Andes Centrales. *Boletín de Arqueología PUCP* vol. 2, pp. 127-146, Pontificia Universidad Católica del Perú.

Pineda Quevedo, José

- 1989 *Patrones de Asentamiento Pre-hispánicos en el valle de Condebamba*. Ministerio de la Presidencia y CONCYTEC(Consejo Nacional de Ciencia y Tecnología), Lima.

Seki, Yuji

- 1993 La transformación de los centros ceremoniales del Period Formativo en la cuenca de Cajamarca, Perú. In L.Millones and Yoshio Onuki(eds.), *El Mundo Ceremonial Andino*. Senri Ethnological Studies No.37, pp. 143-168, National Museum of Ethnology, Osaka.
- 1998 El Period Formativo en el valle de Cajamarca. In Peter Kaulicke (ed.), *Boletín de Arqueología PUCP* vol. 2, pp. 147-160, Pontificia Universidad Católica del Perú, Lima..

Terada, Kazuo

- 1979 *Excavations at La Pampa in the north highlands of Peru, 1975*. University of Tokyo Press, Tokyo.

Terada, K. and Y. Onuki (eds.)

- 1982 *Excavations at Huacaloma in the Cajamarca Valley, Peru, 1979*. University of Tokyo Press, Tokyo.
- 1985 *The Formative Period in the Cajamarca Basin: Excavations at Huacaloma and Layzón, 1982*. University of Tokyo Press, Tokyo.
- 1988 *Las Excavaciones en Cerro Blanco y Huacaloma, Cajamarca, Peru, 1985*. Andes Chosashitsu, Departamento de Antropología Cultural, Universidad de Tokio.

Thatcher, John P.

- 1972 *Continuity and Change in the Ceramics of Huamachuco, North Highlans, Peru*. Ph. D. Dissertation, University of Pennsylvania.
- 1975 Early Intermediate Period and Middle Horizon 1B Ceramic Assemblages of Huamachuco, North Highlands, Peru. *Nawpa Pacha* 10-12, pp. 109-139.
- 1977 A Middle Horizon 1B Cache from Huamachuco, North Highlands, Peru. *Nawpa Pacha* 15, pp. 101-110.
- 1979 Early Ceramic Assemblages From Huamachuco, North Highlans, Peru. *Nawpa Pacha* 17, pp. 91-108.

Topic, John R. and Theresa Lange Topic

- 1982 *Informe sobre Investigaciones Arqueológicas Realizadas por el Proyecto Arqueológico*



*Huamachuco Julio-Agosto 1981*. Presentado al Instituto Nacional de Cultura, Lima.

1983 *Huamachuco Archaeological Project: Preliminary Report on the second season, June-August 1982*.  
Department of Anthropology, Trent University.

1984 *Huamachuco Archaeological Project: Preliminary Report on The Third Season, June-August 1983*.  
Trent University Occasional Papers in Anthropology Number 1, Trent University.

1987 *Proyecto Arqueológico Huamachuco: Informe Preliminar Al Instituto Nacional de Cultura sobre  
Investigaciones Realizadas Hunio-Agosto 1986*. Department of Anthropology, Trent University.

Zaki, Andezej

1983 Cultura Pelón, Una desconocida cultura en la Sierra Norte. *Boletín de Lima* 5 (29), pp. 13-19, Lima.

